

「朝鮮人」という呼称をめぐる

谷守正寛*¹, 金善日*²

On the Appellation “Chosenjin”

TANIMORI, Masahiro *¹, KIM SunIl *²

キーワード：チョーセンジン, 朝鮮人, 韓国人, 朝鮮

Key Words : Chosenjin, 조선징, Korean, Korea

1 はじめに

「朝鮮人」という呼称は複雑で希有な運命を背負った語のようである。本稿ではこの「朝鮮人」という呼称をめぐる問題を扱うが、この言葉は、たとえば「アジア大陸東部の大半島。南北に細長く突出し、南は朝鮮海峡を挟んで日本に対し、北は鴨緑江・豆満江を隔てて中国東北部およびシベリアに接している。面積 22 万平方キロメートル。ほぼ単一の朝鮮民族が住む。」(『広辞苑第五版』)という一般の辞書による「朝鮮」の語義から他意もなく素朴に考えれば、朝鮮⁽¹⁾という地域に古来より居住してきた伝統的な固有の民族である「朝鮮民族」の人という意味で捉えることが可能である⁽²⁾。

それでもあえてこの呼称について分析・考察を行なうのは、稿者(谷守, 以下同じ)に次のような経験があったからである。まず、数年前に外国人留学生対象の授業において、たまたま発せられた「朝鮮人」という言葉を聞いた韓国人学生に動揺のようなものがみられたこと、また、その時に学生の1人がその言葉は漢字ではどう表記するのかを質問したことから、日本語の上級習得者であるはずの学生が「朝鮮人」という漢字表記を必ずしも正確に、あるいは確信をもって認識していないということが分かったこと、さらに別の機会では、漢字表記をすでに知っている韓国人学生から、日本人に「朝鮮人」と呼ばれると気分が悪いという趣旨の証言を得たこと、しかもその当人は自らその理由を明確に説明できなかったことである。このようなことから、「朝鮮人」という呼称には、その語義以上に何か微妙で複雑な背景があると判断し、その一側面を明らかに示したいと考えた。

ここで、「朝鮮人」という語が韓国人たちに何か複雑でマイナスの感情を引き起こさせるとすれば、日本による植民地時代(1910～1945年)ならびに戦後において、朝鮮人あるいは在日韓国・朝鮮人に対してこの呼称が使用されたさまざまな場面や状況に伴う日本人の差別的態度が思い起こされるからではないのか、という意見も予想できよう。しかし、戦後半世紀以上たった現代において、この呼称をめぐるのは、稿者を含め戦後世代のおそらくは多くの日本語話者が持つイメージと、韓

*¹ 人間文化課程(国際言語文化講座)

*² 忠南大学日語日文学科(韓国)

国人の若者（大学生）のそれとの間に大きなギャップがあると思われ、そうであればなぜなのか、という点を特に問題の焦点にした場合、歴史的あるいは政治的問題とは離れたレベルで、単に言語学的問題としても捉えうる余地があると考えられる。

上の稿者の経験から、この呼称をめぐる状況を整理すると、少なくとも本国出身の韓国人学生については、次の3つのことが言える。つまり、①「ちょうせんじん」という音は何らかのマイナスの感情を引き起こさせる、②「朝鮮人」という漢字表記を、つまり「ちょうせんじん」の語義を、必ずしも正確に認識していない、③「朝鮮人」という漢字表記を知る者でも、依然として、何らかのマイナスの感情を引き起こさせる、ということである。

そこで、この呼称が実際に本国の韓国人学生にどのように受けとめられているかを、アンケート調査によってさぐり、表われた結果を受けて、上の①～③の原因になりうると思われるものに関連する具体的資料（映画等）を韓国から入手し、それを元にも実証的に分析し、考察を行なった。

さて実は、上の①～③の3点をみていく上で、「朝鮮人」に関して、聴覚的に捉えられる音としての語と、視覚的に意味表示が可能な文字としての語とを表記上区別する必要がある。そこで、論考において前者を表わす時は「チョーセンジン」とカタカナで記し、後者はそのまま漢字で表わすこととした。なお、「朝鮮」や「韓国（人）」などといった呼称についても必要に応じてふれる。本稿では、現在における一単語の使用をめぐる現象・問題を考察の主な対象とし、政治的・社会（歴史的）的観点からは、紙幅の関係上、基本的にはふれえない。

2 「朝鮮人」および「朝鮮」の捉え方

2.1 「朝鮮（人）」の語義について

「チョーセンジン」について分析・考察する前に、日本における「朝鮮」あるいは「朝鮮人」という呼称について少しくふれておく必要がある。

朝鮮（人）の問題に関する文献・資料は、実際、膨大な量に達し、「朝鮮（人）」という言葉を含む言説は、したがって、枚挙に遑が無い。そして、この言葉をめぐるさまざまな言説の捉え方は、ほんの一部の文献においても、たとえば、次のように多様である。

(1) 本書における隣国の呼称にはやや整合性が欠けている。（鄭(1995)）

(2) 本書が「朝鮮」という用語を用いる点について一言付け加えておきたい。これは現代の国家を指すものではなく、日本における慣用的な使い方にしたがって、民族・言語・文化など、朝鮮半島全体にかかわるものを指すときに用いている。ただし、共同執筆という性格上、章ごとに微妙な使い方の差がある。この点については執筆者の考え方を尊重するという意味から、あえて修正や統一を行わなかった。（吉田(2000)）

(3) 韓国・朝鮮と中国についての特殊なことのひとつは、その地域を指す名称がない、ということである。私どもは韓国の市民にむかって『朝鮮では』という名称でそのひとの住む地域を指すことはできない。『韓国では』というべきなのである。しかし韓国は国名であって、地域名の代わりとしては使いにくい。私どもにとって大切な隣国だけに、この不便さによるこんで堪えねばならない。かといって、両国の世界的な地域名称である「コーリア」「チャイナ」を日本においては日常語としてつかうわけにはいかない。なぜなら、世界の他の国とはちがいで、同じ文明を共有してき

た仲間だからである。(司馬(1987))

(4) 大韓民国は「韓国」または「南」(大韓民国の国籍を有する人は「韓国人」)。朝鮮民主主義人民共和国は「北朝鮮」または「北」(朝鮮民主主義人民共和国の国籍を有する人は「朝鮮人」)。在日の韓国籍・朝鮮籍・帰化者を総称して「在日コリアン」または「在日」(「帰化者」を含め朝鮮系日本人といわれる人の数は、さまざまな見解があり流動的です)。国籍を表現するときは「韓国籍」(韓国)、「朝鮮籍」(北朝鮮)。一九四五年以前の呼称は「朝鮮」。地域を指すときは「朝鮮半島」。民族を表現するときは「朝鮮人」。韓国で使用する言葉は「韓国語」、北朝鮮で使用する言葉は「朝鮮語」、日本で在日が使用する言葉は「韓国・朝鮮語」。なお、ハングルは「朝鮮の文字」という意味で、「韓国語」でも「朝鮮語」でもありません。(辛(1998))

(5) この本では日本の植民地時代の朝鮮人と戦後の「在日」とを一応区別している。日本敗戦まで朝鮮人は日本国籍の「日本人」であり、敗戦後の占領期を除けば、これらの朝鮮人はその後外国人にさせられた。(原尻(1998))

このように、「朝鮮(人)」の呼称をめぐることは、(2)の言うように、使用者によって差があり、統一した使い方ができない複雑な背景のあることが窺える。たとえば、(4)では、北朝鮮の国籍を有する人を指す時も、南北両方の人を民族として表現する場合も、同じく「朝鮮人」としている。朝鮮民主主義人民共和国を「北朝鮮」としておきながらも、その国籍を有する人を「北朝鮮人」と呼ばずに、民族としては韓国人をも指しうる「朝鮮人」という呼称で呼ぶならば、その語義の複雑さはいっそう増大する。(3)の指摘するように、「朝鮮」が韓国の地域のみを指しては用いえない—これに対し北朝鮮の地域に言及する時には使えよう—としても、「朝鮮半島」という呼称が日本では一般的であるように、半島全体の地域を指す語としては使えるのである(ただし、韓国では「韓半島」と呼ぶ)⁽³⁾。

朝鮮人は民族的には韓国人を含むにもかかわらず、政治的には韓国人が必ずしも朝鮮人ではないという、地理的意味合いと政治的意味合いとが複雑に絡んだ問題を孕むと言える。

さらに、北朝鮮・韓国成立より前の植民地時代(1910～45年)にさらに遡る時代のその地域の人も「朝鮮(人)」と呼ぶことができる⁽⁴⁾。李朝は1897年、「朝鮮が清との宗属関係をすでに解消した自主独立の国家であることを示すために国王(高宗)が皇帝に即位し、あわせて国号を大韓、年号を光武と改めた」(『世界大百科事典』)ように、国号の呼称は「大韓」となったが、(6)の「韓国併合に関する条約」(『官報』明治43年8月29日号外)におけるように、1897年以降韓国併合までの時代の国や国民に言及する場合に、「韓国」、「韓人」という呼称も使われたという事実がある(下線は稿者による、以下同様とする)。

(6) 第1条 韓国皇帝陛下は、韓国全部に関する一切の統治権を完全且永久に日本国皇帝陛下に譲与す。…(中略)…

第6条 日本国政府は、前記併合の結果として全然韓国の施政を担当し、同地に施行する法規を遵守する韓人の身体及財産に対し十分なる保護を与え、且其の福利の増進を図るべし。
(海野(1995)による)

「韓国」の辞書的意味をみると、たとえば『Super 日本語大辞典』では、「古代、朝鮮半島南部にあった国。また、朝鮮。」(「からくに」と読む古語の場合)、ならびに、「①李氏朝鮮末期一八九七(明治三〇)年から、一九一〇(明治四三)年、日本に合併されるまでの国号「大韓帝国」の通称。韓。

②「大韓民国」の略称。」とある。つまり、「大韓帝国」と「大韓民国」の「韓」が「帝国」と「民国」に共通する「国」という字をとるために、(6)の「韓国」と戦後の「韓国」とは指す対象が異なるにもかかわらず、形式上は同じということになる。大韓帝国の韓国人と戦後の韓国人とは厳密には意味が異なるが、名称がたまたま同じであるにすぎない（「韓人」ならば民族的意味からは同じとなるが）。1910年に日本は「韓国」を改めて「朝鮮」と称させ、朝鮮総督府を置いて統治したが、この場合の「朝鮮」には日本によって改称させられたという、李朝時代とは異なる特別な事情がある。

朝鮮半島に古来より居住してきた人々は、植民地時代においても、李朝時代と同じく「朝鮮人」ということになる—ただし植民地時代には法的に日本国籍を有するとされた—が、韓国内では何と呼ぶべきかは、少なくとも現在の若者にとっては必ずしも定かなものはなさそうである。これを、固有の名詞を避けて言えば、“우리나라 사람”（わが国の人）とでも言えよう。

一般の韓国人（77名）に次のような質問をしたところ、それぞれ次のような回答を得た⁽⁶⁾。まず、「チャーセンジン」ではなく、「チョソンニン」と発音される韓国語の 조선인（＝「朝鮮人」）という語を聞いた場合、どういう人たちを思い浮かべるかについては、①李朝時代（1910年まで）の人々（39.0%）、②日本の植民地時代の人々（51.9%）、③北朝鮮の人々（2.6%）、④わが国の人（＝韓国人）（2.6%）、⑤造船人（3.9%）などが挙げられた。また、「チャーセンジン」が「朝鮮人」の日本語読みであることを知っているかどうかを尋ねたところ、知っていると答えた者は44.2%、知らないと答えた者は55.8%であった。特に、知らないと答えた者は日本語の学習経験のない割合が高かった（85.0%）が、知っているも答えた者も必ずしも日本語を学習したことがあるわけではない（45.6%）。このようなことから、日本語であるはずの「チャーセンジン」は、その語義が必ずしも理解されていなくても、韓国人の間では広く知れ渡り、ほぼ市民権を得た語だと言える（ただし、一般の韓国語辞書にはこの語は載っていないようである）。朝鮮人がどういう人を指して使われるかが明晰でないこと、「チャーセンジン」が漢字表記の「朝鮮人」を指す日本語であると必ずしも認識していないことが、ここでも窺われる。⑤の「造船人」についてだが、読みでは「朝鮮人」と同じくチョソンニンとなり、言い換えれば、조선인（＝「朝鮮人」）があまり身近な語ではない人もいることを物語っている。

朝鮮半島に古来より居住してきた人々に対する呼称の変遷を、時代に示して簡単に示すと、次のようになる。

| | | | | | |
|-------|-----|-------|-------|------------|---------|
| 時 代 → | 李朝 | 大韓帝国 | 植民地時代 | 戦後(1945年～) | 1948年～ |
| 呼 称 → | 朝鮮人 | 韓(国)人 | 朝鮮人 | 朝鮮人 | 韓国人・朝鮮人 |

植民地時代の朝鮮半島の朝鮮人は、法的に日本国籍を有する日本人であったため、少なくとも日本人からみれば、必然的に当時の「朝鮮人」とは民族の呼称ということになる。

外国人が戦前の彼らに日本語で言及する時にも、次のように、「コーリョー・サラム」というカナ表記も用いながらも、「朝鮮人」という呼称を使うことが観察される。

(7) CIS=独立国家共同体在住の離散朝鮮民族の発展の展望を語る前に、在ソ朝鮮人、いわゆるコーリョー・サラムが、極東地方からカザフスタンと中央アジアに強制的に移住させられた後の社

会的・政治的状況を簡単に分析させてください。1937年から38年にかけての秋から冬、果てしないステップの荒野に送り込まれた朝鮮人たちの政治的・経済的無権利状態を想像することは難しくありません。(ラウレンティエー・D・ソン(1993))

また、戦後成立した今日の北朝鮮を「朝鮮」とは言えないため、「朝鮮人」を北朝鮮の市民と捉える者も若干いるものの、北朝鮮の人だけを指すとは言いがたい。事実、現在でも、マスメディアなどで「朝鮮人」という語が使われた場合、韓国・朝鮮籍の両方の人を指しうることが認められる。次例を見られたい。

(8) (見出し)「朝鮮人は入学拒否」発言問題 福山大学長が陳謝

…(中略)…「今後、大学では芸能舞踊などを通して日韓、日朝間の国際交流を進め、韓国・朝鮮籍の学生を受け入れたい」と話した。(『朝日新聞』2001/7/8付)

植民地時代の朝鮮半島は「朝鮮」と呼ぶうるが、そこは当時法的に日本の一部とされたので、少なくとも日本側から見た場合、国名としてではなく地域名としての呼称ということになる。(4)のように、地域を指す場合にあって「朝鮮半島」と呼称し区別しても、南北に分裂した1948年以降の「朝鮮」も地域名として使われているために、「朝鮮」の語義は曖昧となる。林(1996)にも、「1945年の解放後においては国名を『朝鮮』とし、1948年の分断後については大韓民国を『韓国』、朝鮮民主主義人民共和国を『北朝鮮』とした。」とあるように、国名として認められるのは一時期のみにおいてであるとするのが妥当である。

以上のことから考察すると、植民地時代以降(1945～48年を除く)の「朝鮮」および「朝鮮人」については、おおむね次のことが言える。

- (9) a. 「朝鮮」は、国を指す名称として使われていない。
- b. 「朝鮮人」は民族の呼称として使われた。

これは、北朝鮮を単に「朝鮮」とは呼びえず、「朝鮮人」は一国の国籍を有する市民を指して使われないということである。北朝鮮の人を指して「朝鮮人」と呼ぶ場合があったとしても、それは韓国人も含む民族としての呼称という意味合いになる。北朝鮮だけの市民に言及するならば、「北朝鮮人」、「北朝鮮の人」、「北朝鮮人民」などと呼ばなければ正確に確定しない。

「朝鮮人」を政治的意味で捉える立場も一部にないことはない。辛・鈴木(1999)では、「テレビなど公の場で『私たち朝鮮人は……』と発言したりすると、民団(韓国を支持する在日の組織)やその支持者から抗議が来ることがある。…(中略)…『なぜ誇りある韓国人といえないのか!』と。」といったエピソードを紹介しつつ、国家としての「北朝鮮」「韓国」の国籍を有する人の意味で「朝鮮人」「韓国人」という言葉を使う場合もあることを認め、この2つの呼称をめぐる問題はこれから先も解決されないのかもしれないと述べている。

2.2 在日朝鮮人の呼称について

在日朝鮮人については本稿の直接の研究の対象ではないが、若干ふれることにする。戦後日本内地に残った朝鮮人は「在日朝鮮人」となり、そのうち、その後韓国籍に変更した人々が「在日韓国人」となっていく中で、朝鮮籍・韓国籍の在日の人々を一括して「在日朝鮮人」という呼称を使用する場合もみられるという複雑な事情がある⁽⁶⁾。事実、韓国籍を持つ者が自らを「朝鮮人」と称するケースも見られる⁽⁷⁾。在日朝鮮人とは、北朝鮮成立以前からそう称された人たちであり、彼らが政治的意味も含めてすべて北朝鮮系の人々であるとするのは正確ではなかろう⁽⁸⁾。最近では、

たとえば、野村(1996)、辛(1998)、原尻(1998)、辛(2000)のように、「コリアン」を呼称にあてているのが見受けられるが、これは「韓国」と「朝鮮」を包括する語が存在しないために、第三の国語である英語によって解決を試みたものと言えよう⁽⁹⁾。

2.3 「朝鮮」あるいは「朝鮮人」という語の差別性

「朝鮮」あるいは「朝鮮人」が差別的意味合いを持つかどうか、あるいは持つとすればどのように持つかについてみる。

まず、次のような捉え方をみる。

(10) まず「朝鮮」という言葉が持つニュアンスを考えなくてはならない。差別的な意味合いをこめ日本人が使ってきたことを韓国人は忘れない。厳しく対立してきた分断国家が「朝鮮」を名乗っている事情もある。複雑な歴史と現実がある「朝鮮」を歴史上の存在に押し込めることが、韓国では歴史を回復する上で必要なのだ。(吉田(2001))

上の説明のように、対立してきた分断国家が使ってきたことが、「朝鮮」を歴史上の存在に押し込めたい理由なのかどうかはここでは明らかにできないが、日本人が差別的な意味合いを込めて使ってきたとされる「朝鮮」という言葉について、ここで吟味する必要がある。たしかに、たとえば、次例からも窺えるように、この呼称の運命は日本人による朝鮮人の差別的扱いと無関係ではない。

(11) 私は一九三八年(昭和十三年)生まれだが、小学校入学直前に神奈川県下のある小さな町に疎開した。疎開先の家の裏には朝鮮人が住んでおり、K君という二年生の男の子がいた。住みはじめてまもなく、周囲の学童(日本人)がK君を見ると“チョーセン、チョーセン!”と囃したてているのを知り、いっしょになって囃したてたことを今でも記憶している。小学校に入学したばかりの子供にとって、理由などわかつくはずがない。そもそも“チョーセン”が何を意味するのかすらわからなかった。ただ面白かったこと、そして囃されてもK君は決して歯向かってこなかったから、安心して囃したてていたのである。(西尾(2001))

(12) 私が小学校五年生の時、はじめて男の人に朝鮮人だとばかにされて、大声をたててないたこともある。(在日韓国人と共に教育を考える会(1984))

(13) 「朝鮮人」という言葉を日本人が使う時は単純な名詞ではない。名詞以外の意味を含んでいる。それを都合によって、気分によっていたずらする。からかわれる時期はもう終わったろう。(権(1985))

一方、「朝鮮」を中立的・客観的立場で捉える立場もある。(14)(15)は豊田(1990)の説明である。

(14) 朝鮮という言葉そのものが差別用語ではないが、ここにも政治の影がある。北朝鮮が、朝鮮を国号としているため、朝鮮という言葉が、韓国では使いづらくなったのである。朝鮮ホテル、朝鮮日報などの例外を除いては、あまり使われていない。(p.235)

(15) 日本人が朝鮮と呼んでも、そこに差別感情はない。外国人が、ある一国の名称を、自国語で、どう呼ぼうと、そのこと自体を、あまり問題にすべきではない。アメリカ人に対してわれわれは、ジャパニーズではなく、日本人だという人はいるまい。その日本人も、スミオと呼ばずにフィンランドと呼んでいるし、ブリテンと呼ばずにイギリスと呼んでいる。(p.235)

上では、語義的に「朝鮮」の語自体には差別的な意味合いが含まれないと主張している。もっとも、「朝鮮」は韓国を指す国名としてではなく、半島地域をさす呼称としてである。さて、(14)と(15)には大きな違いがある。(14)では、韓国語読みあるいは漢字表記による「朝鮮」に差別的意味合い

が含まれないこと、(15)では、「朝鮮」が日本語読みによる「チョーセン」の場合であっても差別感情が伴わないことを指摘している点である。つまり、韓国人にとっては(14)で問題にする「朝鮮」と(15)で問題とする「チョーセン」とは別の語なのであり、ここで同レベルで論じるのは適当ではない。これについては後述する。

次を見られたい。

(16) プジャは、高校二年で十七歳の長女を頭に一男三女の母である。四人とも日本の公立高、中、小学校に、本名で通っている。子どもたちにそれまでの日本名を捨てさせ、本名で学校に通わせたのは長女が小学四年、次女が同三年、三女が同二年の時だった。「あなた方は朝鮮人。朝鮮の名前で学校に行くことにしたと、オモニが先生に話をしに行きます」と話した時、三人の子どもは、「いまでも朝鮮人とバカにされているのに。本名で通ったら……」と涙を流して、母に翻意を迫った。(前川(1981) pp.75-76)

(17) 日本名で通学し、日本語を話し、友だちとまるで同じ暮らしぶりの自分が韓国人だったとは……。母親の話で納得はしたものの、チョンドクにはまるで実感が迫ってこない。ただ、「子どものころ、朝鮮人だったのでずいぶん、いじめられたり、笑われたよ」という母の話には、現実感があつた。学校などで朝鮮人の子どもがいじめられる光景は、チョンドクにとってそう珍しいものではなかったのである。他人事だと思っていた問題が、突然自分の頭上に。チョンドクは懸命に頭をめぐらして考えついた。「友だちには韓国人だということを絶対に黙っていよう。わからなければ、大丈夫だ」(前川(1981) p.55)

(18) a. 自分で友達に「朝鮮人よ」といった時、自分の顔が赤くなっている。ぼくは親友にどんなことがあっても、だれにも話さないとちかいをさせ、自分が韓国人だということを話した。ところがその親友は、ぼくとけんかをしておこり、友だちに話してしまった。

b. いくら大人の人達や、朝鮮の人達が韓国にほこりをもてといても、私には韓国にほこりをもつ気持ちはありません。日本で生まれて日本でそだって、日本の学問を学んだ以上は日本という国にあこがれています。(在日韓国人と共に教育を考える会(1984))

(16)の場合、在日朝鮮人自らのエピソードに関するものであり、韓国での事情とは異なるが、母親が自ら「朝鮮(人)」という呼称を使用し朝鮮の名前を使うよう促しており、むしろ「朝鮮(人)」に誇りのようなものを抱いている姿が窺える。興味深いことに、(17)では、母親がかつて朝鮮人であったのに対して、主人公が自分自身が韓国人であることを隠そうとし、(18)においても、「朝鮮人」と「韓国人」を混在させてあるいは一貫せずに使っている。このことから考えれば、問題は「朝鮮人」という語のみに固有の意味に関わるものではなく、非日本人という事実なのである。このことは次の文面からも窺える。

(19) 私が一番最初に朝鮮人と知ったのは、小学校六年生の時だった。その時は、なぜ自分は日本人に生まれなかつただろうと、くやしさがいっぱいになりました。(在日韓国人と共に教育を考える会(1984))

自らを「朝鮮人」と述べる筆者が述べる上の心情には、したがって、「朝鮮人」と呼ばれること以上に、むしろ日本人でないという事実が、その中心にある。これは、植民地時代において(民族的に)日本人でない(=朝鮮人である)ことを理由に差別されたことを引き継いでいると思われる。つまり、日本人でないことを理由に差別された場面に、必然的に「朝鮮人」という呼称が伴ったこ

と、言い換えれば、その語義よりも使われ方が問題なのである。

次の記事は、韓国マスコミが少なくとも1981年においては、たしかに「朝鮮」を差別的用語として捉えていたが、現在では様相が異なっていることも窺わせる。

(20) NHKは81年、「朝鮮語講座」として開設を内定したが、韓国マスコミが「朝鮮という語は差別的名称」などこぞって反発し、政治問題化。NHKは翌年、開設見送りを決めざるを得なかった。講座は八四年四月、「アンニョンハシムニカ(ハングル講座)」の名で始まった。…(中略)…ただ、かつて「韓国語にしろ」とNHKに強硬に求めた在日大韓国民団では、今回、特に注文をつける動きはない。一方、北朝鮮系の朝鮮学校関係者も「センター試験採用は、うちの生徒には朗報。和解の時代に、名前になどこだわらない」と話している。(『asahi.com』2001/01/19付)

一方、学問の分野においては、韓国側から「朝鮮語」という名称を問題視する声も依然あるようである。

(21) 東京大も頭が痛い。昨年6月にソウル大との間で、互いの地域研究強化を約束。教養学部の「朝鮮語」や、文学部大学院の「朝鮮文化部門」を拡充する予定だが、韓国側からは「名称にも配慮を」との声が届いている。(『asahi.com』2001/01/19付)

上の場合は、北朝鮮を指す語として「朝鮮」を捉える政治的立場に立つ見方であるが、このような立場で捉える場合は、むしろ「朝鮮」という語自体を差別用語としてみなしているということではなく、韓国(語)に対してその呼称を充てることを問題としているのであり、差別という次元の問題とは異なる。こうした立場は、(2)のような、「民族・言語・文化など、朝鮮半島全体にかかわるものを指す」と捉える立場とはやや異なるが、本稿では、(2)の立場で考察をすすめたい。

次例のように、韓国人自身が「朝鮮」を使う例も観察される。

(22) (題目)“野蛮な国”日本と“汚い国”朝鮮

…(中略)…ところが韓日合邦後に毎日風呂に入り服や布団を干す習慣をもった日本人が大挙して韓国へ入ってきた。彼らが冬の間いつも風呂に一度も入らず、一年中服や布団を一度も干さずに過ごしている韓国人を見て、汚いと考えないならばそれがむしろ異常なことであったはずである。(金(1997) pp.47-49)

(23) なお、史料、引用文で「韓国」「韓国人」が用いられている場合は、それをそのまま引用しているが、一般的な記述では「朝鮮」「朝鮮人」を用いている。(辛(1995))

(22)では、文中で「韓国(人)」と述べているが、表題には「朝鮮」を使用していることから、韓国人である筆者が「朝鮮」を差別用語としては扱っていない。さらに、(23)では、一般的記述には「朝鮮(人)」がむしろより適当であるとみなしている。

興味深いことに、次のような在日韓国系新聞の記事の掲載から、むしろ「朝鮮(人)」を差別用語だとみなす日本人の姿勢に疑問を投げかけるメッセージが読みとれる。

(24) わが子を見つめる周囲の日本人は「朝鮮人」と言ったらいけないんじゃないか」と思っているようだ。勤務先の近江八幡市福祉事務所の近くには、「朝鮮人街道」と呼ばれる地名が残っているが、「差別用語ではないか」と指摘する人もいた。朝鮮という言葉がなぜ差別につながるのか。「日本人の心の奥底に朝鮮人に対するマイナスイメージがあるからだ」と北川さん。(『民団新聞』1998/05/27付)

こうした日本人の心情は、次のような言説からも窺える。

(25) 本来、「朝鮮人」というのは、その人の民族を表現するニュートラル（中立的）な言葉であり、「アメリカ人」「日本人」と同じように民族の区別を表わすだけの表現であろう。朝鮮という呼称は朝日に鮮やかな国という意味であり、麗しい呼び方であった。しかしながら、我々日本人は「朝鮮人」を蔑称として使おうとした歴史を有している。そこで、「朝鮮人」という表現を使うことに躊躇する人もいて、差別意識がないのだという証しのつもりで、「朝鮮の人」と言ったりするのである。今なお私たちの周囲で、神経を使ったつもりで「朝鮮の方」とか「朝鮮の人」とか言う人がいるのはそのようないきさつがあるからである。（菅野(1991)）

では、上のように、「朝鮮の方（人）」というふうに「の」を挿入すれば差別感が解消するのであれば、「朝鮮」という語自体は差別的でないということになる。日本人が「朝鮮人」を蔑称として使おうとしたとすれば、「朝鮮」に続く「人」という部分が差別的だということになるが、これには首肯しがたい。しかし、「チョーセン」＋「ジン」という組み合わせの場合に、差別的ニュアンスが発生するということも否めない。さらに吟味が必要であろう。

西尾(2001)では、「朝鮮」ということばが素直に（自然に）出てこないと述べつつも、現代では「朝鮮（人）」を特に差別語としては含めず、代わりに差別語としては、次のような「朝」を省略したものを挙げている。

(26) 高校の地学の教科書に「北鮮寒流」「東鮮暖流」の表記があり、文部省が民間連（民族差別と闘う連絡協議会。当時）から抗議を受けたケースがある。文部大臣の諮問機関である学術審議会の学術用語分科会は、これらのことばを学術用語集から削除した（一九九一年）。

次は植民地時代当時の新聞記事である。

(27) 二十餘名の鮮人檢舉 檄文押収 二十三日京城特派員發 (『東京朝日新聞』 1919/05/24 付)

(28) 最近一朝鮮人は自分に語った「併合以来文運、交通頓に啓けて日本に對する感謝は到底言語に盡されぬが一度思ひを韓國の昔に趁すれば當時の太平を夢みて戀々堪へ難きものがある…」

(『東京朝日新聞』 1919/05/25 付)

(27)では、朝鮮人に対して非難的な記事であるためか「鮮人」と表記している。ところが、興味深いことに、朝鮮人に対する好感を表わした同じ新聞の翌日の記事(28)では、「朝鮮人」が使われているのである。このことから、当時であっても「朝鮮人」には、常に差別感情が伴っていたわけではないと言える。

(29) 朝鮮について経験あり知識ある人々の思想がほとんどなんらの賢さもなく深みもなくまた温かみもないのを知って、余は朝鮮人のためにしばしば涙ぐんだ。余は前にも云ったように朝鮮についてなんらの学識ある者ではないが、幸に余はその芸術に現れた朝鮮人の心の要求を味うことによって、充分な情愛を所有する一人であるのを感じている。（柳(1919)）

朝鮮人に対して共感を表明した同時代の上の言説では、躊躇なく「朝鮮人」という呼称によって問いかけている。当時、蔑称として「朝鮮人」という呼称を使うという意識があったとはいえない。

現在、日本の地方自治体などでも、「在日韓国・朝鮮人」という用語において、差別的意味を伴わずに「朝鮮人」という呼称が数多く使われている。次のように、民族差別に反対を表明する文言の中においてもこの呼称がふつうに使われる。

(30) 当時、旧植民地出身者は日本の支配からの解放と民族独立を勝ち取った「解放国民」とし

て扱われるべきであったにもかかわらず、当事者としてみなされなかったため、「(第) 三国人」と呼ばれたのです。だからこの言葉には、朝鮮人はじめ旧植民地出身者の解放・独立を正当に認めようとせず、さらに歓喜にわき活発に活動を開始した彼等に対する当時の日本人の蔑視と敵意が込められているのです。(『立評タイムス』第23号. 2000/04/17付)

このような現状から考えて、今なお「朝鮮人」を多少使いにくいと感じる者がいても、この呼称を除外することは難しく、また、その積極的理由もないと考えられる。

次のような叙述からは、「朝鮮」が韓国人にとって不快な語であるかのようにとれる。

(31) 今の韓国人で、「朝鮮」という言葉を用いないでくれ、という者があるがこれは無理だ。彼ら自身で、すでに用いているのである。たとえば「朝鮮日報」など。(小室(1985))

しかし、現在においても、次例のように、植民地時代の政治的関心事でありながら、「朝鮮人」という呼称による表記そのものには、韓国メディアも否定的ではない。つまり、この呼称自体は差別用語として意識されていないとみてよいだろう。これについては次節でも扱う。

(32) 日本政府は、328 ページにわたる同教科書が 137 項目を修正したと明らかにした。手をつけていない項目がないほど、つぎはぎ教科書となってしまったわけだ。現に、多くの項目が削除され修正された。たとえば、「朝鮮半島は日本に突きつけられている凶器」という表現を削除し、土地調査の強制性・皇民化政策と朝鮮人の反発・強制動員の記述を追加して植民地支配の加害行為を補足し、「侵略戦争」を正当化した内容を削除している。(『朝鮮日報』(日本語版) 2001/04/03 付)

2.4 まとめ

「朝鮮(人)」について、これまでみてきたことをまとめると、次のようになる。

まず、「朝鮮」は、植民地時代以降は、終戦直後の一時期を除いては国を指す名称として使われておらず、したがって、「朝鮮人」はおおむね民族の呼称として使われてきた。なお、韓国人にとって「朝鮮人」は多義的である。日本・韓国両国民にとって、「朝鮮」あるいは「朝鮮人」という語自体に語義的に差別的意味合いはなかろうが、あるとすれば、語義的にはなく語の使われ方において、しかも、韓国人にとっては「チョーセンジン」の場合であると予想される。現代の日本人にとって「朝鮮人」と「チョーセンジン」は同じ語ではあっても、韓国人にとっては異なるということになる。これについては、次節である調査をもとに詳しくみていく。

3 「チョーセンジン」をめぐる韓国人学生の意識調査

前節では「朝鮮(人)」をめぐる概観してきたが、「朝鮮人」が場合によって韓国人にとって不快な語であったり、中立的・客観的に使われる語でもあることが分かった。しかし、それはいつたいなぜなのかについては、これまで必ずしも十分に明らかにされてこなかったようである。前節では、音としての「チョーセンジン」が問題となるのではないかと予想した。

そこで、韓国の大学生に対して、この呼称をめぐるアンケート調査を行った(以下、「調査」とする)。調査は、2001年3月、韓国大田広域市において、忠南大学の学生133人(男49人/女77人/不明7人)を対象に行ったものである。学生の中には日本語を学習した者とそうでない者とが含まれる。

3.1 「チョーセンジン」とは何の意味か

ここで留意しなければならないことは、(14)と(15)に関連して述べたように、韓国人にとって 조선인 と 조선징 は全く別の語であるということである⁽¹⁰⁾。韓国語において、「朝鮮人」をハングルで 조선인 と表記する（これの韓国語の発音をカタカナで表わせれば「チョソンニン」となる）。一方、「チョーセンジン」をそのまま発音通りハングルによって表記すると、조선징 となり、形式上別の語となる。もっとも、韓国人にとっての 조선징 (チョーセンジン) は、日本人にとっての英語の Japanese が自国の音・文字では「ジャパニーズ」と発音・表記されるのとは、事情が若干異なる。つまり、日本語と韓国語とには、漢字による「朝鮮人」という共有される表記法があるということである。

まず、「チョーセンジン」という語の意味について、次のように韓国人大学生に尋ねた。（括弧内はその日本語訳であるが、調査時には付けていない。）

(33) ‘조선징’이란 말에 대해서 (「チョーセンジン」という言葉について)

무슨 뜻이라고 생각합니까? 잘 모르는 사람은 추측해서 써 주십시오.

(何の意味だと思いますか? よく分からない人は推測して書いてください。)

結果、様々な回答が得られたが、それらの回答内容を大きく分類し全体に対する割合を表1に示す。

「チョーセンジン」という言葉を知っているにもかかわらず、それが「朝鮮人」の日本語読みであること、つまり、その文字通りの意味を知らない者が韓国人の中に少なからずいる(55.8%)ことは上述したが、表1での回答類1と回答類2(計60.9%)がこれに相当すると考えれば、近い割合を示したことになり、韓国人学生も 조선징 を「朝鮮人」の日本語読みであるとは必ずしも正確に認識していないことが裏付けられた。これは言い換えれば、「チョーセンジン」という語は日本語であると同時に韓国語でもある、しかも、日本語にどのように由来するかは必ずしも知られていない韓国語である、ということになる。

表1: チョーセンジンは何の意味だと思うか

| 回答類 | 回答の記述内容のタイプ | 割合 |
|-----|----------------------|-----------------|
| 1 | 韓国人の蔑称 | 35.3% |
| 2 | 朝鮮人の蔑称 | 25.6% |
| 3 | 朝鮮人 (「朝鮮人」の日本語読み) | 36.8% (6.0%) |
| 4 | 無回答 | 2.3% |

回答類1では 조선인 という語は表われない。たとえば、次のような回答である。（括弧内の日本語訳は両稿者による。以下同様。）

(34) 한국사람. (韓国人)

(35) 일본인들이 우리나라 사람을 부르는 말. (日本人がわが国の人を呼ぶ言葉)

とりわけ、多くは次のように、韓国人(わが国の人)を見下げるといった意味が伴うと考え、さらには、不愉快な言葉であることを主張する回答が多く見られた。

(36) 한국인을 낮춰서 부르는 말. (韓国人を低くみて呼ぶ言葉)

- (37) 한국인을 비하해서 부르는 말 같아서 들으면 기분이 나쁘다.
(韓國人を見下して呼ぶ言葉で, 聞くと気分が悪い。)
- (38) 한국인을 낮춰 부르는 것. 듣기 안 좋죠. (韓國人を下げて呼ぶ言葉. 言われたくないです。)
- (39) 일본인들이 한국인들을 비하해서 일제시대에 쓰던 말. 기분 나쁜 말.
(日本人が韓国人達を見下げて日帝時代に使った言葉. 気分の悪い言葉。)
- (40) 일제강점 시대 한국인을 지칭하던 일본어. 멸시, 경멸의 뜻이 포함.
(日帝強制占領時代に韓国人を指した日本語. 蔑視・輕蔑の意味を含む。)
- (41) 일단 어감부터 싫다. 웬지 한국 사람을 무시하는 그런 말투인 거 같다.
(一応言葉の感じが嫌だ. なにか韓国人を無視するような言い方みたいだ。)

상のような回答は, 回答者が 朝鮮人 を「朝鮮人」とどのように関連するかを明確には意識しておらず, 韓国人の別称あるいは蔑称として捉えていることを示す。たとえば, (40)では, 日帝時代の韓国人の蔑称としての別称と捉えている。

次に, 回答類2の説明文の中には, 朝鮮人 (「朝鮮人」という語が表われるものの, マイナスのイメージを表わす説明(日本語訳では波下線部)が付けられている。次がその回答例である。

- (42) 조선놈 (朝鮮の奴)
- (43) 조선인을 지칭하는 말 같은데 어감상 좋지 않다.
(朝鮮人を指し示す言葉みたいだが, 語感がよくない。)
- (44) 조선인 아닌가요? 근데 우리나라 사람을 낮추어 말하는 것 같습니다.
(朝鮮人じゃないですか? でもわが国の人を見下げて話しているみたいです。)
- (45) 그냥 조선인을 낮추던 말이 아닐까요?
(何となく朝鮮人を見下げて呼んだ言葉じゃないでしょうか?)
- (46) 조선사람을 일본인이 무시하는 말. (朝鮮の人を日本人が無視する言葉)
- (47) 조선사람을 가리키는 말인데 뜻은 나쁜 쪽이라고 알고 있다.
(朝鮮の人を指す言葉だが, 意味は悪いと知っている。)
- (48) 한국사람; 일본 제국주의 시절 우리를 강탈하고나서 조선 사람을 낮게 부르는 것.
(韓国の人; 日本帝國主義時代にわが国の人を強奪してから朝鮮の人を見下げて呼んだ。)
- (49) 조선인 이라는 말. 무시하고 경멸하는 의미가 강한 것 같다.
(朝鮮人という言葉. 無視して輕蔑する意味が強そうだ。)
- (50) 조선시대 일본 사람이 조선인을 비하해서 부를 때 쓰던 말이었을 것이다.
(朝鮮時代, 日本人が朝鮮人を卑下して呼ぶ時使った言葉だったと思う。)
- (51) 머저리 같은 조선 민족. (ばかみたいな朝鮮民族)

上のように, 「奴」, 「語感がよくない」, 「見下げて」, 「無視する」, 「意味は悪い」, 「無視して輕蔑する」, 「卑下して」, 「ばかみたいな」などといった説明が付け加えられていることから考えれば, 朝鮮人 に何か否定的な特殊な意味を伴った独立した別語と考えているようである。

回答類3は, 回答類2のような意味を特別に書き加えずにただ 朝鮮人 と記されたものである。ただし, その場合でも, ほぼ全員が, もし日本人に 朝鮮人 (チョーセンジン) と呼ばれたらどう思うかという質問には, 「기분이 나쁘다 (気分が悪い)」といった否定的な反応を示し, 記述している。

回答類3の回答者のうち, 쵸센징 (チャーセンジン) が 조선인 (朝鮮人) の日本語読みであると明確に指摘した者はわずかに8名 (6.0%) であって, うち6名までが否定的な意味が付随すると記している。次はその回答例 (一部) である。

(52) 조선인을 일본어로 쵸센징이라고 부르지만, 이 말은 조선인 그대로의 말이 아니라 그들이 우리나라를 침략했을 때가 조선시대였기 때문에 쵸센징이라고 하는 내면엔 우리를 깔보고 무시하는 뜻이 있다고 들었습니다. (朝鮮人を日本語でチャーセンジンと呼ぶけれど, この言葉はそのまま朝鮮人という意味だけではなく, わが国を侵略した時が朝鮮時代だったので, チャーセンジンには私たちを蔑んで無視する意味があると聞きました。)

(53) 조선인; 순수하게 조선사람이란 뜻이지만 일제시대 때에는 우리나라 사람을 무시하는 뉘앙스를 포함한 말이었기에 지금도 그렇게 생각하는 사람이 많다. (朝鮮人; 純粋に朝鮮の人という意味だが, 日帝時代にわが国の人を無視するニュアンスを含んだ意味だったので, 今でもそのように思っている人が多い。)

(54) 조선인이라는 한자의 일본발음이지만, 일본이 한국인을 비하하여 부르는 말입니다. (朝鮮人という漢字の日本語の発音だが, 日本が韓国人を卑下して呼ぶ言葉です。)

(55) 원래는 조선인이라는 일본식으로 발음한 것인데, 일제 시대를 거치면서 우리나라 사람을 비하하는 의미로 사용. (元來は朝鮮人の日本式の発音であったのに, 日帝時代を経るうちにわが国の人を卑下する意味で使用。)

(56) 말 그대로 조선인을 칭하는 것이기는 하지만 그 시대적 배경을 보았을 때 결코 좋은 의미로 우리 나라를 칭한 것이 아니기에 좋은 표현은 아니라고 생각합니다. (言葉通りに朝鮮人を指すのだが, その時代的背景を考えると, 決していい意味でわが国を指したのではないので良い表現ではないと思います。)

否定的な意味を付け加えずに客観的に説明した回答数はわずかに次の3回答 (2.3%) であつた。

(57) 조선인을 일본어로 발음한 것 (조선 시대에)
(朝鮮人を日本語で発音したもの (朝鮮時代に))

(58) 조선인을 일본어로 하면 쵸센징이 된다.
(朝鮮人を日本語で言えばチャーセンジンになる。)

(59) 조선은 조선이라는 뜻; 즉 우리나라를 가리킴. 징은 인을 발음한 것으로 합치면 조선인 우리나라 사람을 가리킴. (チャーセンは朝鮮という意味, すなわち, わが国を指す。진은人を發音したもので, 合わせて朝鮮人, わが国の人を指す。)

上のように客観的な説明をした者はいずれも, それぞれ 36, 14, 37ヶ月という相当期間の日本語学習歴があり, 少なくとも日本語を学習したことのない者はいなかった。

韓国の一部の地域の若者 (大学生) を対象にした調査からではあるが, 「チャーセンジン」という言葉が単に「朝鮮人」を日本語読みしたものであると捉える者が少数であること, 語としての「朝鮮人」を指すと認識しながらも否定的・差別的な語義が含まれる語であると捉える者が多いこと, 日本人が韓国人を指す場合の蔑称としての別称と捉える者も多いことが分かった。

3.2 「チャーセンジン」をいつどこで知ったか

日本語を知らない韓国人の多くが, 本来は日本語の発音であることを知らずに, ハングルで表記され韓国語になったともいえるこの単語を知っているという希有な事実は, マスメディアによると

ころが多いのではないかと予想される。そこで、調査では 丑先令 を最初に知ったのはいつ頃か、また、どこから知ったのかという質問も行った。その結果を表 2、表 3 に示す。

表 2: チョーセンジンをいつ頃知ったか

| 知った時期 | 割合 |
|-------|-------|
| 小学校 | 41.9% |
| 中学校 | 32.3% |
| 高校 | 13.7% |
| 大学 | 6.5% |
| その他 | 5.6% |

表 3: チョーセンジンをどこから知ったか

| 知った情報源 | 割合 |
|--------|-------|
| テレビ | 58.6% |
| 映画 | 30.8% |
| 漫画 | 3.0% |
| その他 | 7.6% |

興味深いことに、表 2 からは、現代の韓国人の若者が「チョーセンジン」という語を知ったのは、日本語の漢字の音読みなどは知らないであろう小学校の時期というのがもっとも多い。そして、中学・高校までにほとんどの韓国人がこの語の存在を知ることになる。このことは、日本語の音読み由来するこの語は、日本語を学んだことによって知ったわけではないことを意味する。また、表 3 からは、ほとんどの若者が、まず、テレビや映画を通じてこの語を知ったということが分かる。小学生の頃から、ふだん観るテレビ番組などで「チョーセンジン」という語を見たり聞いたりして記憶にインプットされてきた可能性があることを物語っている。そこで、次の節では、韓国のメディアによって、「チョーセンジン」がどのように扱われているかを調べることにした。

4 映画『金の戦争』における「チョーセンジン」の使われ方

「チョーセンジン」のメディアにおける扱われ方をみるために、過去のテレビ番組の録画資料を収集し実証することはここでは困難である。そこで、いくつかの出版物、映像作品の中で日本人が登場すると思われるものについて調べたところ、日本語であると同時に韓国語でもあるという、ある意味ではきわめて奇異とも思われるこの「チョーセンジン」という語が使われている興味深い現象が観察された。

劇画・漫画類や映画などにおいては、言うまでもなく、台詞は韓国人のためのものであるから韓国語によって書かれたり述べられており、登場する日本人も韓国語で台詞を発するか、日本語で話す場合には字幕にハングルでその台詞が訳される。ところが、日本人が朝鮮人・韓国人を差別的に扱う場面になると、「朝鮮人」という部分だけが、韓国語の発音による 丑先令 ではなく、日本語の発音による 丑先令 (チョーセンジン) となることがある。しかも、特に、この語にはじめて接する韓国人の読者や観客たちは、それが日本語の発音によることは正確に認識していないであろうことは、先に見たとおりである。つまり、「チョーセンジン」(丑先令) は、何か耳障りのよくない得体の知れない語に響くのも無理はない。もし日本語による漢字の発音だといずれ知ったとしても、日本人の差別的な振る舞いを描いた場面を観た視覚的経験とともに、耳から覚えた悪い語感には簡単には消えるまい。もしこのような経緯が正しいとすれば、最初に述べたこの語に対する疑問が多少は解けるのではないかと思う。

ここでは、「チョーセンジン」という語が表れたいくつかの韓国のマスメディアによる出版物や映像作品の中から、『金の戦争』(1992)を取り上げ、語の使われ方を具体的に検証することにする。

『金の戦争』(1992)で描かれている事件とは、おおよそ次のようなものである。

在日朝鮮人金嬉老(キム・ヒロ)は、刑務所内で資格を取り、年老いた母親を安心させようと就職口を探すが、差別のせいでそれも見つからない。彼は借金をして軽トラックを買い、食料運搬業で生計を立て始めた。彼はスナック・ミンクスの歌手フサ子と恋に落ちるが、スナックを取り仕切るヤクザのソガはそれを許そうとしない。ソガの策略によって、金は返済不能な借金を抱えることになり、取り立ては金の母の経営する料理屋にまで及ぶようになった。一方、清水署の小泉刑事は朝鮮人に対する差別的偏見から、金が止めに入った清水港での暴力事件の際にも、朝鮮人がやられるのを見てみぬ振りをしてきた。差別的偏見に怒りを爆発させた金はついにソガとその手下を射殺、寸又狭いずみや旅館に人質 13 人をとって立て籠もる。彼は条件としてソガの悪行を明らかにし、小泉に朝鮮人に対する差別発言を謝罪するよう求める。マスコミを出入り自由にし、金は全国に差別的現実を訴えたが、記者に変装した警察に取り押さえられ、事件は終わった。(『有』アジア映画社(神戸市)の解説による)

この映画において「チョーセンジン」という呼称がどのように表われるかを、いくつかの典型的な場面をひろってみていく。なお、日本語の台詞は出演者がしゃべるもので、括弧内の韓国語は字幕に映されたものである(必ずしも意味が完全には対応していない)。台詞に出てくる「朝鮮人」という部分とその韓国語訳には下線を引いた。

次は、日本人の刑事が朝鮮人の経営する飲み屋にやってきて話す場面である。

(60) 女主人：いらっしゃいませ。(어서오세요.)

刑事：住宅街のホルモン焼き屋か、朝鮮人か。(곱창을 굽는 길 보니 조선징인가.)

女主人：そうですが、何をさしあげましょうか？(그렇습니다만 뭘 도와드릴까요?)

刑事：テー・ソーフという奴がよくここに来るだろう。(수상한 사람이 여기로 들어왔 다던데.)

女主人：そういう人は知らないんですが。(그런 사람은 없습니다만.)

刑事：あくどい朝鮮人どもめ。売春、密造酒、やくざなぞ、俺は署から来たんだ。外国人登録証は？(조선징은 더러운 곱창을 잘도 먹는군. 나는 경찰서에서 나왔다. 외국인 등록증은 갖고 있는가?)

金嬉老：持ってるよ。(가지고 있습니다.)

刑事：テーを見たら警察に知らせろ。(수상한 사람이 있으면 경찰서에 신고해!)

刑事が「朝鮮人」と呼びつけるところでは、映画の観客(韓国人)は音としての「チョーセンジン」を聞くことになる。その字幕には 조선징 とあるので、それが 조선인 (朝鮮人) ではないことを知る。つまり、韓国人(朝鮮人)に向かって発せられる、(初めて聞く者にとってはおそらくは奇異な) 조선징 という語を耳にすることになる。それが、한국인 (韓国人) でもなければ 조선인 (朝鮮人) でもないことから、必然的に、日本人が韓国人に対して使う何か独特の呼称となるだろう。

この独特の呼称は何か特別の意味を含むと予想させるに十分である。日本人が「チョーセンジン」と発した場面で字幕に 조선인 とあれば、「チョーセンジン」だけが他の日本語の台詞の単語から切り離され、際立たされて記憶に刻み込まれることにはならず、問題は少なかったかもしれない。

あえて本来韓国語ではない 조선징 という不可思議な表現に訳されることによって、また、それが使用される時のいつもの差別的場面から、それがマイナスのイメージを伴う語であると映るであろう。

次は、やくざに殴られている人を助けようと、金嬉老が逆にやくざを殴り返した場面で、刑事が登場し、放った台詞である。

(61) やめろ! この役立たずの朝鮮人! 逮捕してやってもいいが、かわいそうだから逃してやる。失せろ! うす汚い朝鮮人! おまえは解決役か? あいつらは朝鮮人だ。(멈춰! 이 바보같은 조선징! 체포해도 되지만 불쌍해서 봐주는 거야. 꺼져! 쓰레기같은 조선징아! 너가 해결사야? 저놈들은 조선징이라구.)

上は、日本人の刑事が金嬉老を罵倒する場面であるが、このような「チョーセンジン」の使われ方が、まさしく韓国人がこの呼称を忌み嫌うに至る典型的なきっかけのひとつとなっていると考えられる。

次は、朝鮮人である金嬉老が「朝鮮人」と呼ぶ場合に字幕では 조선인 あるいは 조선사람 となっているのに対して、刑事(日本人)が同じく呼ぶ場合には 조선징 に振り替えられているユニークな例であるが、これは偶然ではなからう。

(62) 刑事: 私が小泉ですが、どなたですか? (내가 고이즈미인데... 당신은 누구요?)

金嬉老: あんたいつも朝鮮人を泣かしてんだってな? 今日もやられていた朝鮮人を反対に侮辱しただろ? 謝れ。(당신이 조선사람을 괴롭힌다고? 오늘도 얻어맞은 조선인을 오히려 모욕했지? 사과해.)

刑事: あいつらが朝鮮人だってことは知ってるだろ? 朝鮮人があれぐらいのこと言われて当たり前だ。誰だ? (당신 누구야? 그들이 조선징인 거 알지? 조선징이 그 정도 말을 듣는 거 당연하다. 넌 누구야?)

金嬉老: 朝鮮人だからってバカにされて当たり前だってのか? 本当に謝る気はないのか? (조선인이라고 무조건 욕을 먹어야 된다고? 정말 사과할 수 없어?)

刑事: 何だと? (뭐라고?)

金嬉老: この問題はきっと社会問題にしてやるからな。覚えてろ。(이 문제는 언젠가는 사회문제로 터트릴테니 기억해둬.)

上の場合、金嬉老自身もたしかに「チョーセンジン」を発音している。また、(61)のように韓国人に対して呼びかける使い方ではなく、金嬉老自身が朝鮮人を差別的に呼んでいるわけではもちろんない。この時の字幕では 조선인 (朝鮮人) あるいは 조선사람 (朝鮮の人) となっている。一方、日本人の刑事が発する挑発的な台詞における 조선징 という語は、その音とともに観る者の脳裏に強いインパクトを刻むに相違ない。

次の例では、金嬉老が自身を朝鮮人と呼んでいるが、これは金岡という日本人ではないという客観的事実を説明するための言葉としてであり、日本人が韓国人に向かって差別的に呼ぶ言葉とは異なる。字幕では 조선징 でなく 조선인 とされていることに注目されたい。

(63) 刑事: 金岡! (가네오가!)

金嬉老: 金岡! 金岡じゃない。俺は朝鮮人金嬉老です。いい返事待ってますよ。

(가네오가! 나는 가네오가가 아닙니다. 나는 조선인 김희로입니다. 결과를 기

다리겠습니다.)

ところが、次例のように、日本人から差別される朝鮮人という意味合いで使われる場合には、金嬉老の女と同様、金嬉老自身が使う「朝鮮人」についても字幕では 조선징 に振り替えられている。

(64) 女 : 近藤さん, 近藤さんはいい人よ, あたし分かってるわ. けど, わたしたちはもうだめだわ. 壁があるわ. (곤도상, 곤도상은 좋은 사람이에요. 난 알아요, 안다구요. 우린 안 돼요, 벽이 있어요.)

金嬉老: 朝鮮人, どうしようもねえからな. (조선징이니 별 수 없지.)

女 : 朝鮮人... (조선징...)

金嬉老: 俺は近藤でも, 金岡でもねえ. 金嬉老だ. それが分かったらいつでも行けよ.

(난 곤도도 가네오가도 아닌 김희로야. 그걸 알면 누구나 떠나가지.)

もっとも、字幕によってストーリーを追う際、逐一「朝鮮人」の日本語の発音とハングル表記との対応の変化を明確に意識するとは思われないが、조선징 が差別的意味合いの場面で表われることを観客が無意識のうちに経験していくことは十分予想できよう。

次の例では、興味深いことに、差別者として描かれた登場人物が発した「朝鮮人」であるにもかかわらず、字幕では韓国語固有の 조선인 に戻っている。

(65) テレビ: それでは今から人質をとって立てこもっている金嬉老が要求条件として指名した小泉刑事の立場表明を直接お届けします. (지금부터 인질극을 벌이고 있는 김희로가 요구조건으로 지목한 고이즈미 형사의 입장표명을 직접 들어보겠습니다.)

小泉: えー, 私は朝鮮人を侮辱した記憶はありません. もしそのような事実があったとしましたら深く反省し, ここに….(나는 조선인을 모욕한 기억은 없으나, 만약 그러한 사실이 있었다면 사죄…)

このようなことから、朝鮮人に向かって直接呼びかけるのではなく、差別的意味合いを伴わない、あるいは伴わないという意図で使われた時には、たとえ日本人が発する言葉であっても、조선징 とはならないと言える。さらに次を見られたい。

(66) ニュースでの会見: 清水署の小泉刑事が暴力事件の現場で、朝鮮人馬鹿野郎と発言したことについてはたいへん申し訳なく思っております. (시미즈서의 고이즈미 형사가 폭력사건 현장에서 조선인 바보놈이라고 한 발언에 대해서는 죄송하다고 생각합니다.)

ここで使われる「朝鮮人」は差別的意味合いを伴うが、直接朝鮮人を呼ぶ言葉ではなく、ニュースにおいて客観的に伝える情報内容の一部としての「朝鮮人」である。上の予想通り、このような場合には、조선징 とはなっていない。

さて、次は微妙なケースである。日本人記者が直接相手に向かって問いかけた「朝鮮人」がある。

(67) 友人: 入ってよろしいですか? 友人です. (들어가도 되겠습니까? 친구입니다.)

記者: 朝鮮人ですか? (조선인이요?)

友人: なにい? それがどうしたって言うんだよ! (그게 무슨 상관이요!)

(68) 記者1: その方はお友達ですか? (친구입니까?)

記者2: そうですよ. 小さい頃からの….(그렇소. 어렸을 때부터…)

記者1: 朝鮮人ですか? (조선인입니까?)

金嬉老:それがどうした?出る,みんな出ろ!(그게 무슨 상관이야? 나가, 모두 나가!)
 記者は特に差別意識を伴わない様子で,おそらくは客観的事実を問うために「朝鮮人」を使っている。そのために,聞き手は殊更にそのことを問われたことに立腹してはいるものの,字幕ではやはり 조선인 となっている。言い換えれば,この場合は「朝鮮人」が呼びかけの言葉として使われたわけではなく,ただ,朝鮮人であるかどうかという事実を問う叙述内容に含まれる情報の一部にすぎないためであろう。ただ,この言葉を直接向けられた聞き手は,呼びかけの言葉に近い印象を過敏に感じ取ってはいるが。

次は金嬉老の幼い頃の場面である。呼びかけの言葉ではないが差別的意味で捉えた「朝鮮人」が表われた後,ナレーターが客観的に述べる「朝鮮」も出てくるが,조선 と 조선이 が明らかに使い分けられている。(ここでは韓国語が台詞である。日本語訳は筆者による。)

(69) 어머니: 어디 맞나 보자.

(母:どれ,合うか見せて。)

김희로: 어머니 이런 옷 안 입어요.

(金嬉老:お母さん,こんな服は着ません。)

어머니: 뭐야! 어서 입어. 제사 지내야지. 아버지가 아시면 베풀친다.

(母:さあ,着て。先祖を祭るんだよ。お父さんが知ったら叱られるよ。)

김희로: 싫어! 조선정 옷 안 입어. 필요 없어. 어머니.

(金嬉老:いやだ!朝鮮人の服なんか着ない。いらない。お母さん。)

나레이터: 그 후로 어머니는 내 앞에서 조선말을 쓰지 않았습니다.

(ナレーター:その後,母は僕の前では朝鮮という言葉を使わなくなりました。)

なお,ここで,조선(朝鮮)という語を使わなくなったという問題は,本稿で焦点としてきたものとはやや異なる問題であり,これ以上ここではふれえない。

これまで一韓国映画の中における 조선인 と 조선정 の使い分けられ方を観察してきた。日本人が朝鮮人に向かって直接呼びかける場面や,差別意識を伴う場合の呼称として言及する場合に限って,韓国語では 조선정 が表われることが確認・実証された。日本人が登場する韓国メディアのその他の作品については,紙幅の関係上,他の機会に譲るが,韓国マスメディアにおける,このような「チョーセンジン」の取り扱いが,韓国でこの語の存在が広く知られていることや,その語義にはないはずの派生したマイナスイメージの一因となっている可能性が予想されるであろう。

5 結語

本稿では,「朝鮮人」をめぐって,数多く存在する様々な言説の一部にふれながら,その様々な捉え方をみると同時に,その語義についてもある程度まで分析を試みた。もっとも,政治的,学術的,歴史的,あるいは感情的視点によって,その捉え方は様々に異なるであろう。しかし,本稿では,「朝鮮人」と「チョーセンジン」を明確に区別することによって,文字としての「朝鮮」が問題とされる次元とは別に,韓国のとりわけ少なくとも若者にとって「チョーセンジン」がどのように受け止められているかをめぐって,アンケート調査を通し,その姿を少しく明らかにできたと思う。調査の結果についてここではふれえなかった部分もある。あるいは日本人の若者の捉え方に

についても知る必要があるが、今後の別の機会に譲りたい。

また、一映画においてではあるが、「チョーセンジン」がどのように使われているかを観察することによって、メディアによる、この語のもたらすイメージへの影響の可能性を予想した。劇画など、その他の作品におけるこの語の使用についてもさらに観察する必要がある。ただし、そうした作品が作られる背景にはより根本的な原因があることは言うまでもない。そうした面について、また、このような言葉の使用をめぐって生じるであろう様々な問題およびその解決等、残された多くの課題について述べることは、今後の課題としたい。

注

- (1) 「朝鮮」という語の歴史的由来については、本稿の考察の対象ではない。
- (2) たとえば、『世界大百科事典』によれば、「朝鮮人」とは、「朝鮮半島を中心に分布する民族。南北朝鮮の約6900万人のほか、中国、日本、北米、中央アジアなどに住む在外朝鮮人は600万人を超えると推定される。人種的にはモンゴル系の黄色人種で、形質的には日本人によく似ているが、北部ではツングース系の満州族に似るとされる。朝鮮語を用いる。(以下省略)」と記されている。
- (3) 豊田 (1990) では、「政治・イデオロギーには関心のない、九十四歳の老母から、『おや、また、朝鮮へ行くのかい?』と訊かれたことがある。朝鮮ではなく、韓国だと、何度も説明しておいたのだが……。」といったエピソードが紹介されている。世代や人によっては、半島全体を分割後の国とは無関係に「朝鮮」という名で一括して呼ぶ場合もある。
- (4) 日本語による文献・説明等では、少なくとも、以下のように、植民地時代以前の朝鮮半島あるいはそこに古来より居住した人々に言及する場合、客観的な呼称として「朝鮮」あるいは「朝鮮人」と呼ぶか、呼んでいた (下線は稿者による)。
 - ① 拝借といって金を借りた以上は此方のもので、返すという念は万々ない。かりそめにも自分の手に握れば、借りた金をもらった金も同じことで、あとのことは少しも思わず、義理も廉恥もないその有様は、いまの朝鮮人が金をむさぼると、なんにも変わったことはない。(福澤 (1899))
 - ② 雨森芳洲は江戸時代60年間対朝鮮の窓口として、活躍した素晴らしい外交官です。(徐 (2001))
 - ①からは日本人が植民地時代にはじめて「朝鮮人」と呼んだのではないこと、②では現代でも韓国人が江戸時代に遡って当時の地域を指す場合には「朝鮮」と呼ぶことがそれぞれ分かる。
- (5) 黄智恩 (私信) による (2001/08)。
- (6) 原尻 (1989) では、「広義の在日朝鮮人」を次のように細分している；①韓国人、②北朝鮮人、③祖国の「朝鮮人」、④在日朝鮮人、⑤帰化者Ⅰ大韓民国系日本人、⑥帰化者Ⅱ朝鮮半島系日本人、⑦帰化者Ⅲ北朝鮮系日本人、⑧帰化者Ⅳ「日本人」、⑨自由人・国際人・その他。また、原尻 (1998) では、「在日韓国・朝鮮人」という表現の最初の提唱者 (徐龍達氏) が在日のインテリであったために、地方自治体などでも広くこの表記を使うことになったと述べ、これは朝鮮半島の二つの国家のいずれに所属するかで決められる呼び方であり、「民族」や地理学的に朝鮮半島出身という考え方が考慮されていない、と指摘している。実際、次のように、自治体の提出する説明文においてはこの表記が使われている (下線部は稿者による)。

「一定の社会 (=社会意識としての差別観念やそれを支えている政治、経済体制) のもとにおいて部落は差別される地域に、女性に差別される性に、在日韓国・朝鮮人は差別される民族、外国人になったのです。」 (大阪市同和事業促進両国地区協議会ホームページ『同和問題Q & A』(2001/06 現在))
- (7) たとえば、辛 (1998) には「私は民族として『朝鮮人』といい、国籍を『韓国籍』ということにしています」とある。
- (8) 在日朝鮮人という場合の「朝鮮」について、辛 (2000) は、次のように述べている。

国籍は「韓国」です。韓国籍を取得したのは、二十七歳のとき。それまでは、外国人登録証の国籍欄には「朝鮮」と書かれていました (日本政府は、この「朝鮮」は国籍ではなく、出身地域を示す単なる記号

だと解釈しています)。二十歳のとき、日本生まれの父にふるさとである釜山を見せてあげたくて、国籍の変更を申請しました。

- (9)なお、和英辞典(『研究社新和英中辞典』)では、「朝鮮人」を「a Korean」,「韓国人」を「a (South) Korean」とし多少の違いを設けてはいるものの、「朝鮮」も「韓国」も同じく「Korea」である。
- (10)「チョーセンジン」は、ハングルでは、조선징とも Joseonjingとも表記しうるが、前者の方がやや日本語の発音に近いので、本稿では前者の表記法を統一して採用することにする。

参考文献

- 海野福寿 (1995)『韓国併合』岩波書店。
- 菅野圭昭 (1991)「孫基禎と『消えた国旗』」『研究論叢』25号。神戸親和女子大学。
- 金 鉉玉 (1997)『金教授の日本談義 韓国人のみた日本の虚像と実像』桐書房。
- 小室直樹 (1985)『韓国の悲劇 誰も書かなかった真実』光文社。
- 権 五嘩 (1985)『日本漫想』駐釧路韓国教育院。釧路市。
- 在日韓国人と共に教育を考える会 (1984)『こぼとの叫び』在日韓国人と共に教育を考える会。札幌。
- 司馬遼太郎 (1987)「私的断片史」『日韓 理解への道』(鮮于輝・高柄翊・金 達寿・森 浩一・司馬遼太郎 (1987)) 中央公論新社。
- 辛 淑玉 (1998)『韓国・北朝鮮・在日コリアン社会がわかる本』KKベストセラーズ。
- 辛 淑玉 (2000)『在日コリアンの胸のうち—日本人にも韓国人にもわからない』光文社。
- 辛 淑玉・鈴木邦男 (1999)『こんな日本大嫌い!』青谷舎。
- 辛 美善 (1995)「在朝日本人の意識と行動—『韓国併合』以前のソウルの日本人を中心に」『日本学報』14。大阪大学文学部日本学研究室。
- 徐 賢燮 (2001)「日韓交流の新時代～日韓あわせ鏡のその後～」『日韓交流セミナー (講演要約)』グランドハイアット福岡にて (1月30日)。
- 鄭 大均 (1995)『韓国のイメージ』中央公論新社。
- 豊田有恒 (1990)『増補決定版 日本人と韓国人 ここが大違い』ネスコ (日本映像出版株式会社)。
- 西尾秀和 (2001)『差別表現の検証—マスメディアの現場から』講談社。
- 野村 進 (1996)『コリアン世界の旅』講談社。
- 原尻英樹 (1989)『在日朝鮮人の生活世界』弘文堂。
- 原尻英樹 (1998)『「在日」としてのコリアン』講談社現代新書。
- 福澤諭吉 (1899)『福翁自伝』時事新報社 (富田正文校注 (2001. 慶應義塾大学出版会) による)
- 前川恵司 (1981)『韓国・朝鮮人—在日を生きる』創樹社。
- 柳 宗悦 (1919)「朝鮮人を想う」(読売新聞 (1919年5月20～25日) 初出。『アジアと近代日本 反侵略の思想と運動』伊藤照雄編 (1990. 社会評論社) 所収。)
- 吉田光男 (2000)『朝鮮の歴史と社会』放送大学教育振興会。
- 吉田光男 (2001)「試される隣国へのまなざし 歴史教科書問題 韓国・修正要求の意味」朝日新聞 2001.7.20付『文化』欄。
- ラウレンティー・D・ソン (1993)『CIS= 独立国家共同体在住離散朝鮮民族』川口市文化センター「アリアル」での報告 (予稿)。
- 林 夏生 (1996)『戦後日韓文化関係の歴史的变化—韓国における日本大衆文化開放問題をめぐって—』東京大学大学院総合文化研究科修士学位論文。

引用資料・文献

- 『金の戦争』(1992) 金永彬監督. 스타맥스社 (韓振興業社制作).
- 『広辞苑第五版』(1998) 岩波書店.
- 『世界大百科事典』(1998) 日立デジタル平凡社.
- 『Super 日本語大辞典』(1998) 学研.

